

2020年4月2日

京都大学関係者の皆様へ

京都大学体育会馬術部

弊部の4月1日以降の活動について

新型コロナウイルスの感染拡大の防止のため、3月31日午後に川添信介学生担当理事から、4月1日以降の課外活動の全面的な自粛要請が通達されました。しかし、一部の例外があり、発表された文章には「馬の最低限の世話を除く」という表現が記載されています。弊部は特例的に「馬の世話を資する最低限の活動」を認められることとなりました。

多くの方は、「馬の世話を資する最低限の活動」と聞くと、飼料を与えてさえすれば良いのではないかと思われるかもしれませんが、それだけでは馬の健康を保つことはできません。我々が日々馬に騎乗して運動を行っていることには、調教という競技的な側面だけでなく、強度のある運動を課すことで馬の肉体や心肺機能に負荷を与えて、馬の健康の維持・健康な成長を促して育成するという側面があります。騎乗して運動を課しないと、また運動と言っても強度のない漫然なものであると、調教面で悪影響を及ぼすのはさることながら、馬にとって、人間と同様に肥満やストレス、さらには生命に関わる疾患の原因になると言われています。

命ある馬をパートナーとして活動する者として、日々馬に騎乗して運動を課すことを自粛するとなると、馬の健全な成長や、一生に渡る健康に対する責任を放棄することになってしまいます。そのため、特例的に弊部の活動は認められることとなったのですが、あくまで「馬の世話を資する最低限の活動」であるので、本来4月に予定していた大会や、外部の乗馬クラブ主催の講習会への参加は見送ることになりました。感染拡大のリスクを踏まえた大学当局の通達に従い、日々の運動による馬の健康の維持に専念することが賢明であると判断を下した次第です。また、新歓活動も大学当局の通達に従い、感染が終息するまでは当面の間は自粛させていただきます。活動にあたっては、当然のことながら、手洗い等の予防策の徹底・体調不良の部員の練習参加を認めない、極力多くの部員が集合することを避けるようにするといった感染拡大防止のための措置を最大限に講じます。北部構内や馬場での活動をご覧になることがあるかもしれませんが、以上のような事情があることをご理解いただくと幸いです。

大会・講習会に参加できないことで、日々の育成・調教の成果を発揮する場、技能の向上の機会を失うことは非常に残念なことであり、他の団体と同じようにモチベーションの維持に苦しむ部員がいることも確かです。ですが、大学当局及び皆様のご理解のもと、馬の命を預かるものとしての責任を果たしていきたいと考えております。

新型コロナウイルス感染症が一日でも早く終息して、諸々の活動が通常通りできるようになることを祈念するとともに、弊部の活動にご理解とご協力をいただけるよう、心からお願ひ申し上げます。

